

デジタル技術・ICT機器等を 活用した業務効率化

(医療DX)

令和8年1月22日 (木)
14:25～14:45

大分県医療勤務環境改善支援センター
医業経営アドバイザー
眞鍋 一

1. 医療DXとは・・・

国の定義

医療DXとは、保健・医療・介護の各段階（疾病の発症予防、受診、診察・治療・薬剤処方、診断書等の作成、診療報酬の請求、医療介護の連携によるケア、地域医療連携、研究開発など）において発生する情報やデータを、全体最適された基盤を通して、保健・医療や介護関係者の業務やシステム、データ保存の外部化・共通化・標準化を図り、国民自身の予防を促進し、より良質な医療やケアを受けられるように、社会や生活の形を変えることと定義できる。

（出展）第1回「医療DX令和ビジョン2030」厚生労働省推進チーム資料

2. 医療DXの目的

デジタル技術を活用して国民がよりよい医療を受けられ、同時に医療機関が適切な治療を提供できるようにすることです

また、医療機関の効率化によって社会全体の健康・生活を向上されることができます

3. 導入効果

業務時間の大幅削減（書類作成業務・入力業務の効率化）

→生成AIの活用をして、一定のクオリティを担保できる

4. 医療機関でのDXの必要性

(1) 現場の声

① 医療に係る記録の転記・書類作成の重複な業務の削減

→導入することによって一度作成したものを再利用する
(患者情報等の再利用・点検書類の再確認)

② 手作業による転記ミスとそれに伴う確認作業の無駄・時間の削減

→導入によって点検業務に係る時間が基本的になくなる
→書類作成の時間短縮

③ 人手不足による業務量の増加

→聞き洩らしや伝達漏れでの対応が無くなる
究極的には音声入力
→医療スタッフの負担軽減

④ タスクシフト／シェアによる新たな業務負担

→診療前・看護業務前に患者の症状等を毎回確認することがなくなる
ただ、変化については確認の必要があり、患者との情報提供時間も増える

⑤ 現場対応出来ない職員の行動…離職へ

→対応出来ない職員にきめ細かい教育・研修

5. 経営者の視点（医療DX導入の課題）

（1）導入から完成までの時間管理とコストの確認とその調達方法

- ① 全体的な費用の把握と補助金申請
- ② 目標に基づく日程のチェック
 - ・計画より遅れていないのか？
 - ・問題の把握

（2）セキュリティ対策

- ① 機器導入に伴う情報管理…ダブルチェック等

（3）組織の立上げ（新たな分野の設置）

- ① 既存の業務量に新たな業務が追加

（4）施設的なトラブルへの対応

- ① 事前に調査をし、電波の届かないところを解消しておく

（5）職員への教育・研修

- ① レベルの違う職員へのきめ細かい教育・研修
 - ・導入に伴う離職者を出さない

6.導入事例

(1)外来

- ・オンラインによる受付予約（前日に確認のメールが入る）
- ・AI問診（自宅等でゆっくりと対応できる）
→矛盾点のみを事前に調べ、確認のための問診できる
- ・デジタルによる診療予約の作成
- ・AIによる診断サポートシステム
(カルテや紹介状などの文書を自動で作成するAI)
- ・カルテ作成

(2)病棟

- ・電子カルテとバイタルデーターの連携
- ・タブレット、スマートフォンの連携
- ・退院時の看護サマリー作成

(3)連携室

- ・コミュニケーションアプリの利用による情報共有
- ・診療情報提供書の作成

ただ、医療機関によって対応が異なるため実際の運用に関しては職員同士で無駄なもの、利用していないもの等を洗い出し、それに基づいてそれぞれの医療機関で検討することが必要である

ご清聴ありがとうございました